

シビルNPO連携プラットフォーム／since2014

CONTENTS

▼コラム

わかり易い土木第31
土木と災害対策 第3部
：野村吉春

CNCP通信

VOL.104／2022.12.5

■今月の土木■



●平成30年度のフォーラム会場風景

▼フォーラムから

▼建設コンサルタンツ協会の活動

・「若手の会」と「活動内容」のご紹介：椎名昌士

▼シリーズ子どもが知りたい土木の世界を発見！

・はたらく車④「対策本部車」

▼フレンズコーナー

・庄内・社会基盤技術フォーラム：安中武幸

▼読者からのお便り

▼事務局通信



●令和3年度のフォーラム会場風景

■庄内・社会基盤技術フォーラム

山形県庄内地域の土木技術者のレベルアップと連帯感を高めることをねらい、産学官の土木技術者有志が連携し、研修及び交流の場を提供することにより、地域の土木技術者が新しい技術動向をとらえ、自ら応用し、更に他地域への情報発信をめざすことを支援し、地域の発展に貢献することを目指しています。

平成11年3月の第1回フォーラムから21年に渡り、毎年1～2回の発表会を開催して、今年度で第28回になりました。

(インフラパートナー担当窓口：小池禎一)

▼フレンズコーナーに続く。



●今月のフレンズは、
土木学会インフラパートナー団体の仲間です。



▼コラム

わかり易い土木：第31回

土木と災害対策 第3部

NPO法人 州都広島を実現する会 事務局長
シビルNPO 連携プラットフォーム 理事

野村 吉春



■ はじめに

今回は、災害に関する「リアルな話題提供を」という要望に応えて、2014年8月20日に発生した、「我が国最大の都市型土砂災害」とも呼ばれる「広島土砂災害」のリアルを書きました。

そこで、今回は後半の部として、土木人であり、また被災地の住民という立場で、災害の発生時点の緊急対応から、現在の復興事業に至る状況について、「①災害に対するこの地域の脆弱性、②私が直ちにとった行動、③地域の若者たちの素晴らしい活動」の3点について報告します。

■ 災害に対するこの地域の脆弱性

「広島土砂災害」は、局部的な集中豪雨に伴う「土石流+浸水被害」です。これまでも中山間地域での大規模な土石流が発生していますが「人的被害」は比較的小さかった。しかし、今回は人口100万人を超える地方中枢都市を襲った「都市型災害」いう点に着目したい。

● 地域特性

「広島土砂災害」は、広島市安佐南区のごく一部である「緑井・八木地区」という、狭いエリアに災害が集中的に発生したことから、まずこの地区の「地域特性」を考察します。



(* 上図のハザードマップには、今回お話しする多くの地域情報を追加で書き込みました。)
この地域の主な地域特性を下表に示します。

要素	主な地域特性
地形	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市の中心から内陸部へ5～10kmに位置する安佐南区は、面積は広いが山ばかり。 ・平地は太田川と支川に沿う幅2～3kmの細長い平地があるのみで、「緑井・八木地区」では権現山と阿武山（標高586m）の山麓部に扇状地を形成している。
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐南区は、広島市の8区の中で現在は最大の人口集積地域で、かつては安佐郡に属していた田舎だが、1970年代に広島市に合併後に急成長した地域である。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐南区の狭い平地には、大型の商業施設や郊外型の店舗が立地し、マンションが多数立地。また山麓部は大規模な宅地開発がなされ、大学が5校も立地している。 ・今回の被災地「緑井・八木地区」では山麓部への「宅地のミニ開発」が進行した。
ハザードマップ	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑井・八木地区」の山麓部は全て「土砂災害警戒区域」であり、また平地部のほとんどが「浸水警戒区域」に指定され、かつて太田川が何度も流路を変えた歴史を持つ。 ・「安心して住める区域は何処にもない」という危機感が必要である。
交通網	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐南区は広島市北部の交通の要衝であり、軌道系はJR可部線とアストラムラインが通じ、道路網は山陽道広島IC、山陰地域に至る国道54号と交通の要衝の地。 ・「緑井・八木地区」に関しては、国道54号から山麓部の住宅地に至る道路は幅員2～3mの非常に狭い道路で、2車線を有するアクセス道路は皆無と言ってよい。

●発災時の人命救助・救援活動

「広島土砂災害」の降雨は深夜の2～4時の3時間に集中した。広島市内の8区の消防署から、早朝にはほぼ全消防車や救急車が被災地に集合し、人命救助や救援活動を開始した。また広島県警や県内の自衛隊もいち早く参加し、午後には近県や日本全国から多数の応援部隊が駆け付けるに至っている。ここで私の気付きを5点ほど列記します。



- ① 迅速な対応を目の当たりに、「日本国民は素晴らしい」と思った。
- ② 緑井の山陽道広島IC（＝広島市の玄関）、そこから被災地は至近距離で、6車線の国道54号が緊急車両の臨時駐車場の役割を果たした。
- ③ 問題は、国道54号から被災地に通じる道路幅が2～3mと狭く、土石流の堆積物と腰まである泥濘に足腰を奪われ、進入に1時間を要するなど、人命の救出に困難を極めた。
- ④ 私の自宅は、国道から800m入ったところだが、被災地で唯一2車線の幅員があり、緊急車両が縦列駐車し、凡そ10日間、昼夜にわたって行方不明者の捜索活動を展開した。夜間も煌々とした照明、無線の交信、寝泊り、3度の食事・・・私は関係者への畏敬の念を抱いた。
- ⑤ 複数の小学校が避難所となり、「災害派遣・精神医療チーム（DPAT）」がいち早く対応した点も、災害大国ならではの支援体制を知る機会となった。

●被害状況

関係者の昼夜を徹した懸命な努力にもかかわらず、右表の被害を発生したことは痛恨の極みである。

●災害に対する脆弱性

土木人は安易に「想定外」だと語ってはならないが、私がこの地域に住んで40年、「土石流+浸水被害」への危機感を欠いていた。

家屋の損壊が430棟はいずれも山麓部の扇状地へのミニ開発による災害であった。また我が家を含む浸水家屋4129棟は、平地部にあっては常にある浸水被害のリスクを知った。

人的被害 ; 121人	
死者	77 直接死 74 + 関連死 3 人
行方不明者	- 人
負傷者	44 人
建物等被害 ; 4559 棟	
全壊	133 棟
半壊	122 棟
一部損壊	175 棟
床上浸水	1,301 棟
床下浸水	2,828 棟

狭いエリアに死者を77人も出したことは、緊急時の避難路が不備であったこと。人命救助隊が被災地に入るのに徒歩でしか到着できなかった・・・という「道路網の脆弱性」が浮き彫りとなった。

■ 私が直ちにとった行動

この喫緊の事態に、不治の病でベットに伏している身ながら、「土木人のお前には何が出来るのか？」と自らに問いかけ、被災地を熟知する私は、被災の3日後には、「復興モデルプラン（右図のA2サイズ*2枚）」を描いて、広島市議会の議長室に（縁故を通じて）掲げて頂きました。復興モデルプランには、「広島市の都市力の向上」そして、被災地を南北に縦貫する未着手の都市計画道路である「長束八木線」について、「今やらないで何時やるのか！」と、私からの強いメッセージを付しました。



議長室に入出入りする市の幹部や市議達やマスコミの注目を得たことは言うまでも有りません。

実は、この日の行動は、私が若い時に学んだ、伊豆大島の大規模火災の直後にいち早く「復興計画」を提案した「吉坂隆正」（当時、早稲田大学建築学科）から学んだ実践でした。

建築家の吉坂隆正は、いまから遡ること1965年に、船で伊豆大島の元町港に到着すると、しばらく港に立って、島全体や集落を眺め・・・、今でも、語り草になっている「直観力」でもって、元町地区の街づくりをスケッチし、「一晩で復興計画を作成した」という講演を聞きました。

私のように、全国をどさ周りして地域のコンサルティングをやってきた人間には、最小限の情報と観察眼で地域の課題を直感的に見抜く能力。その上で当面の打開策なり、地域づくりのモデル案を直ちに提言できる能力が必須。師いわく、そもそも「直観力の無い人間には、たいした仕事はできない！」という教えに、私は「強いショック」を受け、50年後の今もひたすら研鑽に努めています。

■ 若者たちの素晴らしい活動

「広島土砂災害」には毎日2000～3000人のボランティアが駆け付け、福祉センターの窓口では、現地への手配に1～2時間も手間取り、参加を断られた人たちが1000人も発生するなど不満や混乱も見られた。元々、安佐南区には5つも大学があり、市内8区の中でも断トツで若者が多く、彼らの大半が災害支援のボランティア活動に向かったと話していた。



私の長男は東京で「都市開発」の仕事をしているが、今後の勉強のために、1週間ほど帰省して「災害ボランティア」を勧めたら、すぐに帰省して数日間の泥かきなどを体験した。

当初は、JR可部線が土石流で埋まり、広島駅～緑井駅間での折り返し運行になったため、終点の緑井駅から被災地に向かう



若者たちが、長靴、手袋、スコップを手に長打の列をなして、毎日私の家の前を通るのを見ているうちに、「この国の未来は明るい！」との勇気を与えられた。

■ いま現在の復興状況

主な工事内容は、106基の「砂防ダム」が完成。約200戸の家屋移転を伴いつつ、「長束八木線（5工区）と川の内線」が工事中。地下にはφ5.25mの「雨水貯留槽」が完成といった現況です。

▼土木と市民社会をつなぐフォーラム から「建設コンサルタンツ協会の活動」

建設コンサルタンツ協会 東北支部 若手の会 「若手の会」と「活動内容」のご紹介

建設コンサルタンツ協会 東北支部 若手の会 副委員長
大日本コンサルタント株式会社 技術部 地域交通計画室
椎名 昌士



1. 「建設コンサルタンツ協会 東北支部 若手の会」の目的

「建設コンサルタンツ協会 東北支部 若手の会」は、平成 28 年 7 月に設立し、現在 7 年目の活動に突入しています。東北地方の建設コンサルタンツ協会に属する若手技術者が、業界の“これから”について議論を交わし、若手の力で業界を活性化することを目的としています。

2. 委員会メンバー構成と WG (ワーキング) について

メンバーは、東北支部の広域コンサルタント、地域コンサルタントに属する若手技術者で構成され、令和 4 年 11 月時点で総勢 21 名になります(表 1)。

現在は、メンバーを【調査 WG】【イメージ WG】【交流会 WG】の 3 つに分けて活動しています。各 WG での活動内容を紹介させていただきます。調査 WG での活動は、次頁で紹介します。

表 1 メンバー一覧

役職	名前	所属	備考
委員長	佐々木香菜子	(株)三協技術	
副委員長	椎名昌士	大日本コンサルタント(株)	イメージ WG リーダー
幹事	小林光司郎	応用地質(株)	
委員	酒井里佳子	三協コンサルタント(株)	調査 WG リーダー
//	富田毅	(株)オリエンタルコンサルタンツ	
//	天野麻里亜	いであ(株)	
//	作山裕貴	(株)昭和土木設計	
//	古里駿	(株)長大	
//	南まさし	パシフィックコンサルタンツ(株)	
//	岩谷直貴	(株)建設技術研究所	
//	東倉弘晃	三井共同建設コンサルタント(株)	交流会 WG リーダー
//	千葉優貴	(株)菊池技研コンサルタント	
//	高橋一也	(株)ウヌマ地域総研	
//	小田嶋健太	(株)復建技術コンサルタント	
//	加藤優平	(株)福山コンサルタント	
//	宮澤林太郎	日栄地質測量設計(株)	
//	柴田愛美	(株)東コンサルタント	
//	角力山柊	日本工営(株)	
//	富取俊馨	新和設計(株)	
//	西川優美	(株)キタコン	
//	根本和也	陸奥テックコンサルタント(株)	

■イメージ WG

業界内の横断的交流や業界外(学生含む)からの建設コンサルタントに対する理解度向上を目的に、アカウントを開設している SNS (Facebook、Instagram、Twitter) を用いて、定例会や東北若手の会のメンバー紹介、OB 挨拶等に加え、技術者の日常を投稿したりしています。今年度は、来年度に実施予定のイベントに向けて、企画や準備を進めています。(SNS、見に来てください!)



Facebook



Instagram



Twitter

■交流会 WG

土木業界の魅力向上や活性化の一助の機会とすることを目的に「交流会」を企画・開催しています。建コン同士の交流会は、年に 2 度対面で実施していましたが、近年はコロナ禍もあるため、Web 会議システムを活用した交流会を開催しています。

また、近年は土木業界全体に目を向け、東北地方整備局若手職員との交流会を年に 1 度開催し、未来の東北地方をテーマに意見交換を実施しています(写真 1)。



写真 1 東北地方整備局若手職員との交流会の集合写真

3. 調査 WG：徹底的な調査で学生に寄り添い、若者らしく PR する WG

調査 WG では、若手目線の建設コンサルタントの魅力（仕事内容、やり甲斐・面白さ、職場環境の雰囲気等）を学生に発信し、業界の認知度の向上、就職活動へのきっかけとしてもらうことを目的に、学生アンケートや若手技術者インタビュー等を実施してきました。

★学生アンケート

学生アンケート 2021 は、今の学生が考える「仕事に対する価値観」や「求める働き方」を把握することを目的として実施し、東北の土木学生 275 名から回答をいただきました。

「何のために働きたいか（選択回答）」については、“お金を稼ぐため”が 44.4% で最も多い割合を占め、次いで“自分のやりがいのため”が 26.2%、“社会貢献のため”が 17.8% という結果でした（図 1）。また、「どういう姿勢で働きたいか（選択回答）」については、“仕事を通して成長したい”が最も多く 33.8%、次いで“誰かの役に立ちたい”が 29.1% でした（図 2）。

これらの設問は、「建コン若手技術者インタビュー2022」にて同様の項目を調査することで、“学生が描く働き方”と“建コンのリアルな働き方”とを比較し、学生に向けたよりよい PR 方法を検討していきたいと考えています。

また、「働くことへの不安要素（複数回答）」については、“人間関係”が最も多く、65.1% が不安であると回答しました。次いで“プライベートの確保”が多く、48.7% でした（図 3）。

こういった不安要素を少しでも軽減してもらうために、新たな調査として「若手技術者インタビュー」を始めました。

★若手技術者インタビュー

この企画は、インターンシップや会社説明会等、就活が始まってからでは聞きづらいリアルな“ホンネ”をざっくばらんに語ってもらい、それを動画配信サイトや SNS に掲載することで、建コンへの入り口を広げるために行ったインタビュー調査です。

インタビューでは、「自分が設計したインフラが形になり使われているのを見ると感慨深い」や、「今後は自分の専門分野を極めていきたい」、また「自分の興味・関心は働く上でその動力となると思うので、大切に考えてほしい」など、若手同士だからこそ話せる“やりがい”や“熱い目標”、“就活生へのアドバイス”を聞くことができました。この内容は、すでに第 3 話まで動画配信サイト YouTube で公開（下記参照）しており、今後も継続的に行っていくことで、広く学生に届けたいと考えています。また、同世代のインタビューを聞き、刺激を受けることで、建設コンサルタント若手技術者の仕事に対する向き合い方やモチベーションの向上にも繋げていきたいと思っています。

建コン東北若手の会 YouTube アカウント

<https://www.youtube.com/channel/UCn7jKYDb9UNTgNahxcJlIKg>

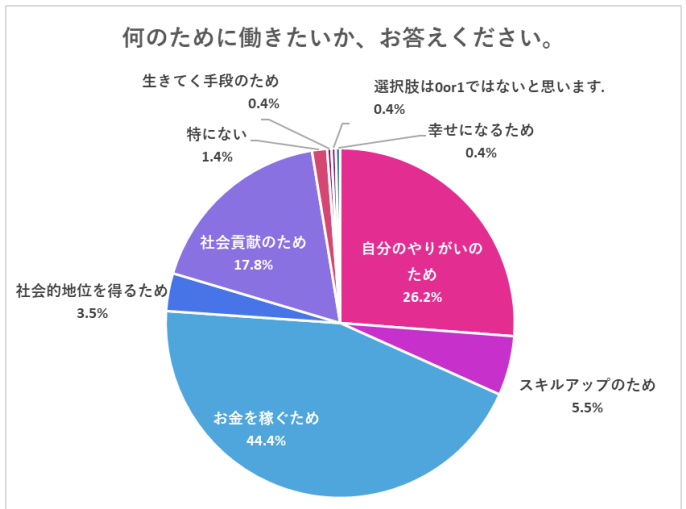


図 1 何のために働きたいか

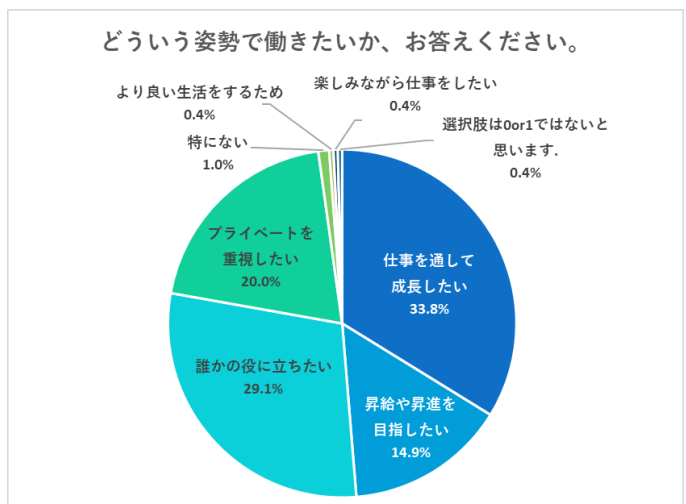


図 2 どういう姿勢で働きたいか

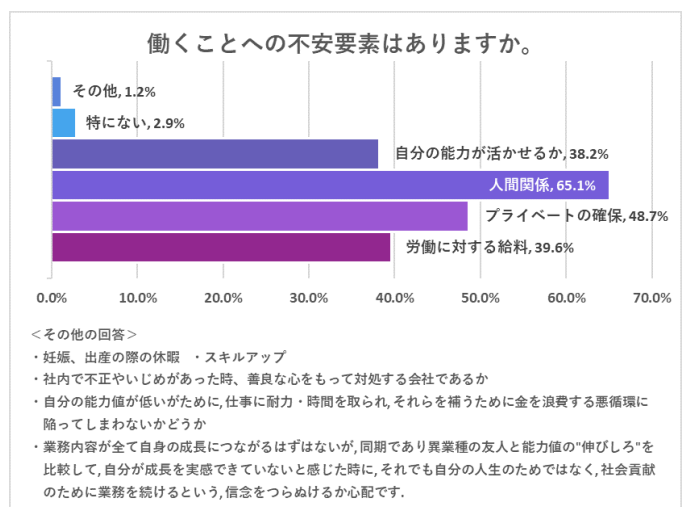
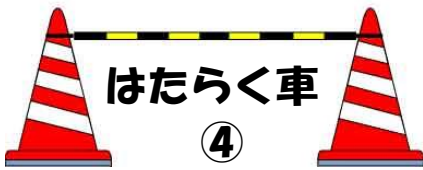


図 3 働くことへの不安要素

▼土木と市民社会をつなぐフォーラムから

シリーズ 子どもが知りたい土木の世界を発見！



このコーナーでは、子どもが知りたい土木に関するちょっとした話題や情報を隔月で紹介します。
今年度のテーマは土木に関する「はたらく車」です！

ねこ子さん



「対策本部車」と書いてありますが、本当に車なのですか？



はい、車です。

土木おとうさん

出典：東北地方整備局

左側部分は普段は右側の中に納まっています。現場に着くと延ばして広い空間を作って、現地対策本部として活躍します。阪神淡路大震災の経験を元に、支援を行う人たちがすぐに駆け付けて活動ができるように開発されたそうです。発電機等の機能も搭載しています。



今後、取り上げてほしいテーマやぬりえにしたい写真を**募集中！**



CNCP 通信へのご意見・ご感想のほか、今後、取り上げてほしいテーマやぬりえにしたい写真、皆さんの作品などを募集しています。



こちらのアンケートフォームから是非投稿してください！
<https://forms.gle/fq3G49VrZKb3s1e8A>



▼フレンズコーナー

庄内・社会基盤技術フォーラム

庄内・社会基盤技術フォーラム 委員長
山形大学 農学部 教授
安中 武幸



■当フォーラム発会の主旨

山形県庄内地域の土木技術者のレベルアップと連帯感を高めることをねらいとして、産学官の土木技術者有志が連携し、研修及び交流の場を提供することにより、地域の土木技術者が新しい技術動向をとらえ、自ら応用し、更に他地域への情報発信をめざすことを支援し、地域の発展に貢献するとの趣旨のもと「庄内土木フォーラム」として、準備委員会を平成 10 年 11 月に発足しました。

平成 16 年 7 月、自然環境を無視できなくなった社会環境、及び建築分野を包含することによるフォーラムの拡大発展と活性化を目的に、名称を「庄内・社会基盤技術フォーラム」に変更しました。

平成 11 年 3 月の第 1 回フォーラムから 21 年に渡り、毎年 1~2 回の発表会を開催して、今年度で第 28 回の開催を行っています。

■運営委員会および実施体制

第 1 回フォーラム開催に向けて準備委員会を発足した後、平成 11 年 7 月に「運営委員会」を発足しました。現在のメンバーは、下記の通りです。

- ・委員長：安中武幸（山形大学農学部 教授）
- ・委員：呉尚浩（東北公益文科大学 教授）／本橋元（鶴岡高等専門学校 教授）／是谷実（酒田工業高等学校 教諭）／高野明（国土交通省酒田河川国道事務所 所長）／森田有一（国土交通省酒田港湾工事事務所 所長）／上原芳久（東日本高速道路株式会社鶴岡管理事務所 所長）／藤井昌道（酒田市 建設部長）／中川繁（鶴岡市建設部 参事）
- ・事務局：小池禎一（前田製管株式会社 総務・人事 G 次長）

フォーラムは、上記の「運営委員会」の他、「協賛」：（一社）東北地域づくり協会と、「共催」：（一社）土木学会東北支部／山形県建設業協会鶴岡・酒田支部／NEXCO 東日本(株)により、実施しています。

■フォーラムの内容

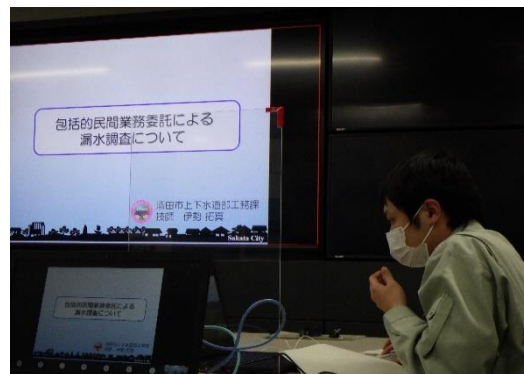
フォーラムは、招待者による「特別講演」1~2 題と、庄内地域の産学官の技術者や大学生・高専生による「事例・研究発表」10 題弱で、午後半日を掛けて行います。これまで「特別講演」の講師は下表の 31 名、「事例・研究発表」の数は 287 題を数えます。参加者は、「事例・研究発表者」と同様の庄内地域の産学官の技術者や大学生・高専生で、毎回 100 名程度が参加します。

開催年	回	講演者	所属	演題
H11	1	長瀧 重義 氏	新潟大学 工学部	コンクリート技術の現状と将来展望
	2	蒔田 貴 氏	二チレキ(株) 取締役副社長	コンクリートの常識それほど
		牛島 栄 氏	(株)青木建設 研究副所長	コンクリートの電気化学的補修工法について
H12	3	佐々木 俊介 氏	(株)三菱総研 研究理事	社会資本整備とくらしの豊かさ
	4	樋野 勝巳 氏	ショーボンド建設(株) 補修工学研究所 所長	施工からみた構造物の補修補強
H13	5	丸山 久一 氏	長岡技術科学大学 工学部 環境・建設系 教授	コンクリート構造物の耐震技術の動向について
H14	6	山路 徹 氏	独立行政法人 港湾空港技術研究所 材料研究室	港湾コンクリート構造物の耐久性および維持管理
		小牟禮 建一 氏	同滞在研究員 (ショーボンド建設(株))	

	7	舘林 茂樹 氏	NPO法人 庄内エコプランニング 理事長（前立川町町長）	近年の地方行政と立川の風力発電
H15	8	西村 修 氏	東北大学大学院 工学研究科 土木工学専攻 環境生態工学研究室 教授	干潟の修復をめざした公共事業の重要性
H16	9	鈴木 基行 氏	東北大学大学院 工学研究科 土木工学専攻 教授	三陸南地震によるコンクリート構造物の被害と耐震補強
H17	10	三浦 尚 氏	東北大学 名誉教授	極低温の世界へのコンクリートの利用
H18	11	横山 正信 氏	鹿島建設(株)東北支店 土木部長	宮城球場改修工事で使われた技術と今後の取り組み
H19	12	細田 衛士 氏	慶應義塾大学 経済学部 教授	“循環型社会”の構築にむけての地域の役割、関係者の連携
H20	13	運上 茂樹 氏	独立行政法人 土木研究所 耐震研究グループ 上席研究員	最近の地震による橋梁被害と耐震設計
		俵谷 祐吉 氏	国土交通省 酒田河川国道事務所 所長	道路をめぐる最近の話題
H21	14	山野井 徹 氏	山形大学理学部 地球環境学科 教授	庄内砂丘の生い立ち
10周年 記念行事		牛山 泉 氏	足利工業大学 学長	地球温暖化防止に寄与する再生可能エネルギー
H22	15	西川 和廣 氏	国土交通省 国土技術政策総合研究所 所長	戦略的維持管理とは何か
H23	16	片田 敏孝 氏	群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻教授、広域首都圏防災研究センター長	天候異変の下で揺らくわが国の避難行政
H24	17	中村 功 氏	東洋大学 社会学部 教授	災害と情報
H25	18	水野 瑛己 氏	公益財団法人 自然エネルギー財団 上級研究員	再生可能エネルギーの現状と風力発電普及のための政策
H26	19	小山内 信智 氏	独立行政法人 土木研究所 土砂管理研究グループ長	最近の大規模土砂災害とその対応
H27	20	太田 健治 氏	山形地方気象台 地震・津波防災官	山形県とその周辺の地震・津波・火山
H28	21	室碓 益輝 氏	神戸大学 名誉教授	事前復興と地域創生～次の巨大地震にどう備えるか
H29	22	宮本 卓治郎 氏	横浜国立大学総合海洋教育・研究センター 特任教員	技術者と災害
H30	23	岡田 晃 氏	㈱ANA総合研究所 代表取締役社長	空港機能と地方活性化
R1	24	中澤 博志 氏	山形気象台 台長	「逃げる」社会へ
R2	25	塚田 幸広 氏	公益社団法人 土木学会 専務理事	国土・インフラを築き守る土木のチカラ
R3	26	風間 聡 氏	東北大学大学院 土木工学専攻 教授	気候変動下での水に関する問題
R4	27	浜岡 秀勝 氏	秋田大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授	交通インフラ整備による地域振興とグリーン社会の実現

■最新情報

令和3年度の第27回フォーラムは、コロナ禍でしたが、今年の2月28日に、WEBで開催し、参加者は106名に昇りました。大学生・高専生の発表もあり、発表できたことに、感謝と感激の感想をいただきました。このように若い人材を含めて、今後も許される限り、産学官ともに一堂に会して技術者の研鑽のため、引続き開催して行きたいと考えています。



▼読者からのお便り

このコーナーでは、「CNCP 通信」の読者から頂いた、ご感想やご意見などを掲載します。これまで、時々頂いていましたが、ご紹介する場がありませんでした。きっと、共感される方や、「私も一言」と思われる方などいらっしゃると思います。

是非、事務局 (cncp.office@gmail.com) ヘメールでお願いします。

to わかり易い土木：第 30 回 土木と災害対策 第 2 部（野村吉春） 11 月号

CNCP 通信ありがとうございます。

わかり易い土木で紹介された 2014 年の広島土砂災害は、時間 100mm の雨が 3 時間も続き、77 名が亡くなったという事実に、改めて驚きました。冬になると台風の被害や豪雨災害の記憶が薄れてしまいがちですが、巨大地震よりはるかに頻度が高い、というかほぼ毎年発生しますね。

教訓を国レベルで共有し対策する必要性を感じます。

from TY さん 2022.11.4

CNCPは、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

- 登録事務所
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3丁目13番地7
名古屋ビル本館2階
コム・ブレイン内
- 連絡事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷

事務局長 田中努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cncp.org/>

▼事務局通信

■11月の実績

●第103回経営会議

開催日・場所：11月11日（金）Zoom会議
議題：プラットフォーム事業プロジェクト活動報告／ホームページ準備状況／会費納入状況、他

■12月の予定

●第104回経営会議

開催日・場所：12月13日（火）Zoom会議
議題：資金調達に関する勉強会／各事業の進捗よくと予定

■現在の会員数

賛助会員29／法人正会員11／個人正会員25／合計
65／サポーター124

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／シンワ技研コン
サルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹中土木／鉄
建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛鳥建設／土木
学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサルタンツ／フ
ジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田建設工業
（以上29社）

